No017 2025/12/31

農とみどり通信 12月号

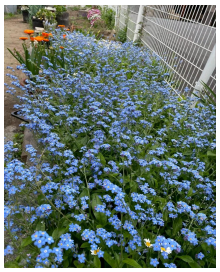
発行：NPO法人 せたがや喜多見 農とみどり

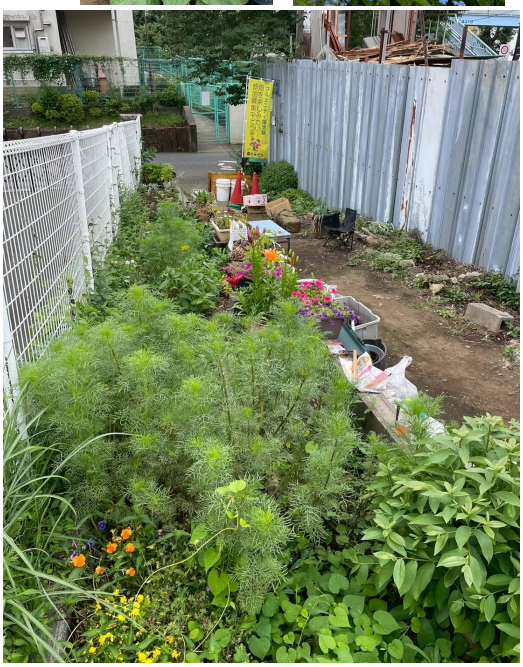
2025年の出来事　　1 / 6

12月、区立次大夫堀（じだゆうぼり）公園民家園の、花壇とプランター

NPOがお世話を任されている花壇とプランターは３箇所。涌井さんの区へのお尋ねから初まった。今、桜の木の手前、横断歩道横の「せたがやガーデン」と呼ばれる野菜のプランターは、成城の、みやかわ農園のブロッコリーとキャベツの苗を頂き定植。春、桜とアブラナ科の菜の花のお色をどうぞお楽しみに！

もう一つの野菜のプランターはえんどう。宮川さん曰く「昔、支柱は木の枝だった」の再現も楽しみ！
また花壇の水引は石井敏活さん、笹さんから頂き、盛夏、毎日の水やりも沢山の方にご協力を頂戴した。お心を頂戴しました全ての皆さまに感謝を捧げます。「農とみどり通信」をご覧の皆さま、お通りの際はどうぞ是非ご覧下さい！
(原田光子)

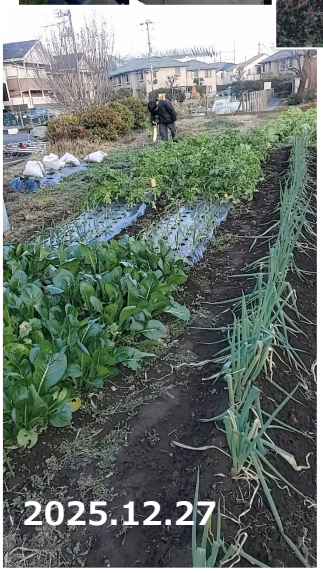




細長アキチ、この一年を振り返って

この一年、細長アキチでは新しい体制のもと、お花とハーブを中心にした花壇づくりが進んでいきました。少しずつ手を入れながら、季節ごとの表情が生まれていく様子は、関わる人にとって小さな喜びの積み重ねでした。
春にはナデシコや勿忘草がふんわりと咲き、通りがかった人が思わず足を止めるほどの優しい彩りを見せてくれました。夏になるとハーブエリアがぐんと元気になり、大葉やホーリーバジルが青々と茂り、そして思いがけずに育ったゴーヤは立派な緑の実をつけ、中でも大輪のヒマワリは、アキチの夏を象徴するように堂々と咲き、たくさんの人の目を楽しませてくれました。「得意な人に活躍してもらう」という合言葉のもと、木工が得意な手塚さんが看板を制作して細長アキチが管理されているのを示してくれたことも、この一年の大きな出来事です。手づくりならではの温かさがあり、NPOの掲示板としてアキチの入り口をやさしく彩ってくれました。
一方で、土地の再開発という大きな変化も訪れました。マンション建設が決まり、アキチを取り巻く環境はこれまでとは大きく変わろうとしています。これに伴い、作業の縮小や一時休止の可能性も高まり、現在の活動は有志による小さな形へと移行しています。それでも、この一年の取り組みは、地域の小さな場所が人の手でどれほど豊かに変わるかを教えてくれました。今後、NPOとしてこの活動をどのように続けていくのか、ゆっくりと考えていく時期に入っています。　（涌井）

2025年の出来事　2/6



成城でゆるやかにつながる宮川農園の畑と堆肥

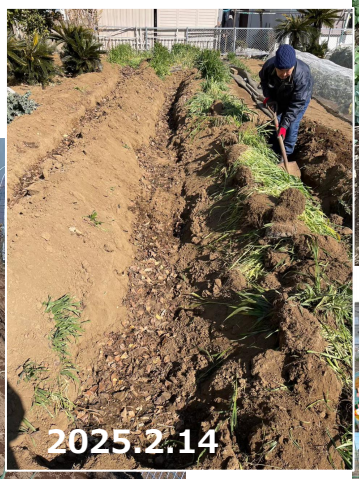
農とみどりでは、成城8丁目の宮川農園さんの畑の一角で野菜の栽培をしています。また、敷地の一部をお借りしてビールかすと落ち葉をまぜた堆肥づくりもしています。この夏、理事長の田島さんからの打診を受けて、微力ながら運営に関わることになりました。宮川さんは、元々喜多見の人で分家して成城に来たのだとか。まるでつい最近のことのように仰るので、「それっていつ頃ですか？」と何気なく問うと「鎌倉時代の頃かな～」とのこと（！）。時間の捉え方のちがいに、宮川さんの穏やかなお人柄の源流に触れた気がしました。そんな宮川農園での農作業はゆるやかそのものです。ちょっとゆるすぎて野菜の収穫が追いつかないほど。

2025年12月現在、大根・小松菜・ネギ・ブロッコリーが成長中です。旬の野菜を採れたてで味わうほど贅沢なことはありません。農とみどり宮川農園チームでは参加者を大募集中です。ご関心のある人は、どなたでもお気軽にご連絡ください。（関口江利子）

小澤農園のNPO区画

2023年の9月ぐらいから小澤さんの畑の一部を使わせていただいております。

お野菜の販売のお手伝い（てづくり市場での販売支援など）もします。（手塚）



2025年の出来事　　3/6

この他、喜多見のお雑煮と関西のお雑煮、ラーパーツァイがありました

からだに優しい　新倉久美子先生の『喜多見の薬膳クラブ』in農とみどりハウス

第3回12月20日（土）は「ゆく年くる年」、季節の薬膳（食養生）のお話しは大変為になりました。また、メニューの郷土料理（日本の薬膳）、「喜多見の年越しそば」は希少な農林61号と先生の奇跡的な出会いで再現。その他、喜多見のお雑煮や、関西のお雑煮。雑誌掲載の薬膳料理「沫雪冬麗」、ラーパーツァイ、ぬた、と盛りだくさん。ご参加は、小学校5年生～85才（元気なお2人は、映画プロデューサー、そして区立農業公園で落ち葉の堆肥づくりを、なんと叶えてしまわれ推進管理をされている方）と年齢層も広く、いろいろな職業の皆さまが集い、元気でやさしい新倉久美子先生と共に過ごした、楽しく賑やかな一期一会でした。

またご希望者で「農とみどりハウス」から1分「世田谷区立次大夫堀（じだゆうぼり）公園民家園の見学も。鏡餅づくりでも現役大活躍の「かまど」や、昔煮炊きもした、幼稚園生たちに大人気の囲炉裏の火も堪能。次回は1月24日（土）10時～14時ですがお昼頃よりお話しと召し上がって頂くだけでもOK、メニューは1月11日頃に決定。リトリート気分でどうぞ、からだに優しい薬膳をゆったりとした喜多見でお楽しみ下さい**!**（原田光子）

映画上映会@たまよん　開催報告

世田谷区玉川にある「たまよんガーデン・コミュニティ」にて映画上映会を開催しました。
6/27,28「大平農園４０１年目の四季」10/31,11/1「大平農園４０５年目つなぐ」を上映し、参加者は、のべ７１名でした。上映後の映画製作者の森信潤子氏、大平農園勤務の矢野尚之氏のトークも好評で、参加者からは、「農や人とのコミュニケーションの大切さを知った」「大平農園を続けていって欲しい」「野菜を購入しに伺いたい」「（たまよんガーデンが、）映画のシーンと一体化するような感覚を持つ瞬間がありました」などの感想が寄せられました。（小堤）

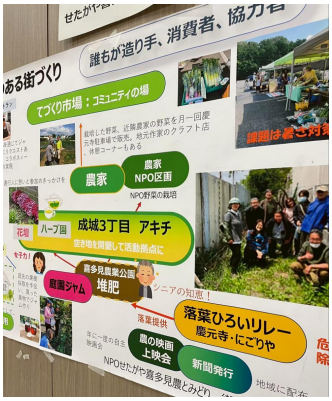
慶元寺の落葉ひろいリレー（12/7）

今年で9回目（2017年から）の開催でした。記録によればお客様は109人、スタッフ19人。地元産のサツマイモをＪＡで購入してしたのですが農地が減り地元のイモが手に入り難い現実があります。
焚火で子供も、大人も大喜びです。
焚火の難しさ、芋が炭になったり、お客様に芋が足りなくなかったり、焼き具体が不足など、多数の問題がおきます。今回は130個の焼き芋をご用意できました。お子さんには無料、大人は100円です。　年々用意する芋が値上がりして、購入費は1万5千円になりました。他の団体のご支援をいただき、また支援者を探して、今年もどうにか開催できました。焚火や落葉で遊ぶ体験は貴重です、子供たちに未来のために継続していきたいイベントです。（編集部）

2025年の出来事　　4/6

今期のせたがや庭園ジャム

2期目を迎えたジャムビジネス、今年は瓶とラベルを刷新！瓶は円筒のタイプに変え、立丹さん(笹さん)にデザインお願いしたら、とてもオシャレで品の良いものを作ってくださいました。梅もぎチームの活躍で、梅ジャムは120gの瓶に73個、ブラックベリーは60個製造しました。てづくり市場や笑恵館での販売に加え、お隣り、狛江市のケンコーコーヒーさんでの委託販売も。「また買いたい！」とのリピートの声も寄せられ、まだまだ需要ありそうです。（関屋）



まちづくりファンドに再挑戦！助成金を獲得

応募団体が全員参加の公開審開会（6/1)がありました。昨年惜敗した世田谷トラストまちづくり主宰する「公益信託世田谷まちづくりファンド」（２５年が最終年）に再挑戦、今年は助成金をいただくことが出来ました。関係者一同よろこび合い、昨年のリーダーだった泉さん（24年10月ご逝去）に心の内でご報告しました。助成金で慶元寺マルシェでの遮光ネットや椅子など備品購入、それらの置き場ともなる「農とみどりハウス」の準備や庭園ジャムの製作費に役立てています。助成金への感謝は、地元の方に喜んで頂ける活動にして返していきたいと思います。（磯田）

喜多見の　にごり屋さんの大ケヤキ群

今年も、皆さんのご協力で「にごり屋」さんのケヤキの落葉掃きが、無事にできました。12/3(水)～12/20（土）で各水土６回。　喜多見の街を東西に通る世田谷通り（旧中津往還）を下り、野川を渡り西へ、ゴルフの練習場のすぐそば、氷川神社・慶元寺への曲がり角、 とても大きなケヤキの大木が何本もつづく。江戸時代からの造り酒屋「にごりや」さんのお屋敷である。あちこちに　まだお蔵が残る喜多見（江戸という名前を徳川家に献上して喜多見姓をうけた）の中でも、特別立派なお蔵が目につく。 そのお蔵を、素晴らしい立派なケヤキ群が取りまく。 しかし、きれいな大木のケヤキは、11月～12月に大変な落葉の雨を降らせる。「にごりや」ご本人の田中家の奥様も高齢になられた晩年、落葉掃きに大変苦労されていた。それだけでなく、隣家の奥さん達も大変なご苦労をされておられ、落葉の掃除、雨どいの手入れも大変なのです。

勿論立派なケヤキは世田谷区の保存樹ですが、このような樹木を維持管理するのは、所有者だけでなく、周辺住民も大変な努力をされておられるのです。　江戸時代からの歴史も含め、このお蔵と大ケヤキ群を喜多見の、いや世田谷の宝物として将来にわたり維持保全して行きたいと考えて居られる住民は多数、田島さん達は住民たちが区と協力して始めた落葉掃きリレーを知り、「にごり屋」の奥様に相談、７年前に落葉掃きを始められたのです。 NPO「せがやや喜多見農とみどり」は世田谷区の落葉ひろいリレーに参加、慶元寺と「にごりや」さんのケヤキ群の維持管理に協力しています、また集めた落葉は農家さんと、自分たちの畑の落葉ダメに運び、堆肥は野菜作りに使われています。

この落葉の堆肥還元は、現在世田谷区が始められている、地球温暖化対策、「脱炭素」の取り組みにつながっているのです。 区民みんなが、このような小さな取り組みでも、ゆるくつながって継続する活動。そして地域の歴史や景観の環境維持をする。素晴らしい世田谷が孫子の代までつなげていける、と思います。参加して下さった皆さん、本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。　　（寄稿　中川清史）

2025年の出来事　5/6

農とみどりハウス（喜多見7丁目）は9月にスタート

6月頃に格安の家賃（工事修理費は別に発生）でお借りできそう、と見えてきました。
実際にやるか？を繰り返し議論、使い方や目的など先を考えた意見交換を経て、動き出しました。
活動の拠点、そして地域のための　誰でも来られる「やさしい　もう一つの居場所」がコンセプトです。
家賃は2万円プラスでもこの団体は貧乏です。基本はボランティア活動で毎月の市場の開催でも5千円にも満たない売上です。ハウスの運営売上から家賃分を生み出せるはず、という企画。ほんとうに借りてよかったのか神判がいづれくだる　大冒険の企画なのです。よくぞ　決断してくれた！この仲間たち！
以前から農の拠点として空き家を探してはいたのですが、ちょっと予想外。リフォームされた中はとても綺麗、お庭も駐車場もあり、奇跡的な出会いです。さまざな活用案が出てきました。
レンタルルームもしています。喜多見の薬膳クラブ、刺繍の会、農のある街視察ツアーの休憩所、地元野菜お食事会、などなど。10月末と12月にはハロウインとクリスマスのオープンデイで、広く市民の方に知っていただくためのイベントを実施、これからも、市民の活用を考えて　農とみどりハウス　を運営してまいります。
(編集部)

たのしい家のお庭に雨庭が登場

グループホームのたのしい家（喜多見4丁目）は街かどに出現するオープン空間です。 仕切りも塀もない気持ちの良い空間を街に提供している施設です。先進の運営方針は、街の中で閉鎖せずオープンな運営と聞いております。 オープンなお庭は、植木やお花だけでなく、野菜の栽培もあり季節の移り変わりを楽しまさせてくれていました。 雨庭とは急激な都市化が舗装道路とコンクリートで地表が覆われた都市空間になった都市設計への反省、雨庭事業は世田谷区の都市デザイン課が進めている施策のひとつです。
NPO農とみどりは、服部農園の作成している堆肥を提供し、雨庭の導入を支援いたしました。
自然の恩恵を気づかせる雨庭、こうした活動で、私たちの大切な街は良くなっていくのです。
※雨庭事業は　一般財団法人世田谷トラストまちづくり様の協力によるものです。（小口）
https://www.setagayatm.or.jp/trust/support/gi/index.html

2025年の出来事　　6/6

農とみどりが教えてくれる、野菜の本当のおいしさ

世田谷のまちに息づく「農とみどり」。
それは、ただ新鮮な野菜を届けてくれるだけではなく、私たちの暮らしや食べ方に、そっと新しい気づきを与えてくれる存在です。農とみどりのお庭で育った野菜を使ったランチ会では、「野菜だけでお腹いっぱいになるなんて」「大根の葉って、こんなにいろいろ使えるんですね」という声が自然と上がります。野菜が“付け合わせ”ではなく、食卓の主役として輝く瞬間でした。
また私が運営している朝コミュニティ食堂では、地元の畑で育った野菜を使った朝ごはんを提供しています。ある日、大根の葉や皮を使った炒め物を出したところ、子どもたちが驚くほどよく食べてくれました。
「家では絶対に食べないのに」「自分からおかわりするなんて」付き添っていたお母さんたちは、目を丸くしていました。野菜が特別な調理をされていたわけではありません。採れたての大根の葉を、シンプルに調理しただけ。それでも子どもたちは、パクパクと頬張り、笑顔を見せてくれたのです。
私たちはつい、野菜を「健康のため」「栄養があるから」と、頭で考えて食べがちです。でも、理屈ばかり先に立つと、本来の野菜の美味しさや、体が素直に求めている感覚を見逃してしまうことがあります。土に根を張り、太陽と風を浴びて育った野菜は、命そのもの。その命を、誰かと一緒に、同じ空間で味わうことで、野菜はさらに魅力を増し、食べる人の心と体を満たしてくれます。
命あふれる野菜をいただくことは、エネルギーを分けてもらうこと。世田谷の「農とみどり」が、これからも私たちの暮らしに、静かで力強いパワーを届けてくれることを願っています。（寄稿　神田由佳　管理栄養士/防災士）

農とみどりハウスでの　お庭野菜のランチ会

２０２５年のてづくり市場を振り返って

2025年のてづくり市場は、２月・８月と雨天中止の12月を除き、計9回、開催しました。
・地元近隣の農家野菜を集めて販売し、地域の方々に地元野菜に親しんでいただきました。
・てづくり品やこだわりの品を販売する出展者（計32の個人／団体）が、野菜販売を盛り上げました。
・無料でお茶が飲める「くつろぎコーナー」では、お客さん、出展者、運営者が入り交じり、思い思いに過ごす姿がみられました。
・三線やウクレレの演奏や、シャボン玉や野菜すくいなどのお楽しみコーナーでは、子どもも大人も楽しみました。
　　てづくり市場は毎月第３日曜の９時半から１２時の開催です（２、８月は定休月）。
みなさまのご来場をお待ちしております。(てづくり市場運営部)

予定

次回の市場は 1/18 です。（2月は休みです）

農とみどりハウス

「喜多見の薬膳クラブ」
1/24（土）
2/21（土）
3/14（土）または、
3/28（土）
になります。
よろしくお願い致します

農とみどりハウス をよろしく

（編集後記）農とみどり通信の17号を発刊することができました。こうして新聞ができるのも支える仲間のおかげです。前回は3月、長く間があいての9カ月ぶりの発刊です。NPO農とみどりは、2016年に発足なので2026は10周年になります。ボランティアさんの集まりで、長く継続できていることは、稀。会員だけでなく多くの方のご支援があり、継続しています、すばらしいことです。
ここへきて、運営の継続に深刻な問題が、いろいろ出ております。例えば老化、メンバーの高齢化、つまり運営は曲がり角に差し掛かっている現状です。「手を広げ過ぎ、」もあります。新しい年2026年、新たな 希望が生れ出るのかもしれません。新風となる人財を！ 歯車を、砂でも小石でも、ウルオイの霞も仲間に！農とみどりのこれからを、ゆっくりと考えてみましょう。
（編集部）
※てづくり市場運営部 ・・・ ありません。とっさに思いついた部署名、小堤さんの連載でした。

「農とみどり」のオフィシャルサイト
スマホからは、QRコードから
簡単にアクセスできます。

ご不明な点や、ご意見ご希望はなんなりと、このメールアドレスにお願いします。
Copyright © 2025 せたがや喜多見農とみどり, All rights reserved.
メールアドレス: : info@nou-midori.org
喜多見4-9-7 世田谷区, 東京都 157-0057